令和6年産
大豆情報（Vol.1）

令和6年8月14日
宮城県石巻農業改良普及センター
Tel ： 0225-95-7612
Fax ： 0225-95-2999
技術情報はこちらのQRコードからも！

6月以降の気象経過

〇6月の平均気温は、全体で平年より高めに推移しました。日照時間は平年より長く、降水量は2日、3日に降雨がありましたが、全体では平年より少なくなりました。

〇7月の平均気温は、上下旬で平年より高めに推移しました。日照時間は、平年並で推移しました。降水量は上下旬では多く、中旬では平年より少なくなりました。

〇東北南部は平年より11日遅く6/23に梅雨入りし、平年より8日遅い8/1に梅雨明けとなりました（＊気象庁　令和6年の梅雨入りと梅雨明け（速報値）8/8現在）。

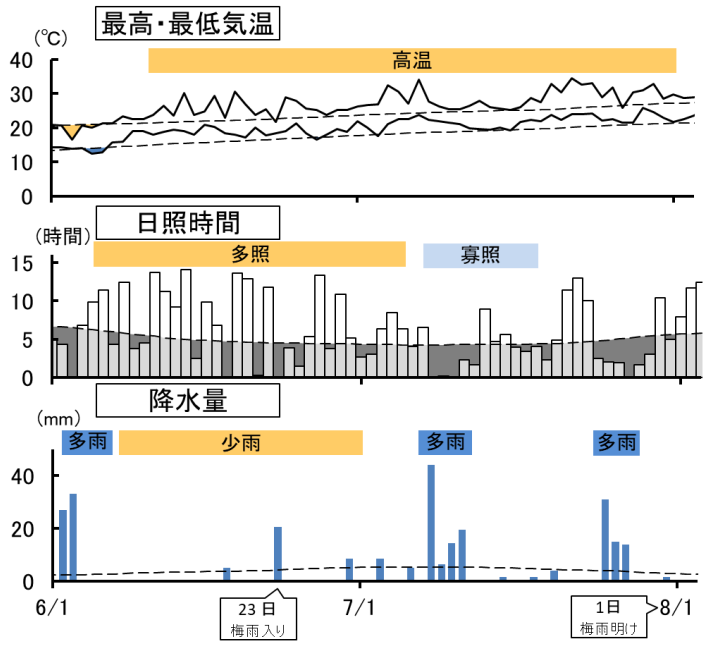


図1　気象経過（アメダス石巻）
※上：最高・最低気温、中：日照時間、下：降水量
※点線は平年値

生育調査結果（7月26日）

〇播種は順調に進み、生育は順調

表1　生育調査結果（7月26日調査）

品種（作型）	地点名（旧市町）	播種日（月日）			主茎長（cm）			主茎節数（節/本）			分枝数（本/本）		
		本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
タンレイ（麦あと）	須江（河南）	6/11	―	―	57.4	―	―	11.4	―	―	1.7	―	―
ミヤギシロメ（普通）	小船越（河北）	6/19	+16	+7	38.2	-11.1	-5.0	8.4	-2.5	-0.1	0.3	-1.5	-0.6

※1　平年値：H31～R5の5か年平均
※2　「-」は早い、短い、少ない、「+」は遅い、長い、多いを示す。
※3　須江タンレイは令和6年産から調査開始のため、前年・平年差はない。

開花状況

○ 開花期は平年並～やや早まっている傾向！

紫斑病対策には**適期の薬剤散布（開花期後20～40日）**が重要です。開花期を確認して防除日を決めましょう。

開花期は、**「1つでも開花の見られた株が全株の4～5割に達した日」**です。開花は、ほ場の外からでは判断しにくいので、必ずほ場の中に入って観察し、正確に判断しましょう。

開花期の把握がずれると紫斑病の適期防除の時期がずれ、防除の効果が低下します

今後の管理

◆病害虫対策

タンレイ： **紫斑病防除を最優先**

ミヤギシロメ
タチナガハ
フタスジヒメハムシ、カメムシなどの**子実害虫防除を優先**

・ カメムシ類の発生量はやや多いと予測されています。また今年も高温傾向が予測されているため、 ハダニの発生にも気を付けましょう。

大豆	紫斑病	発生量：平年並	ハダニ類	発生量：平年並
	アブラムシ類（ジャガイモヒゲナガアブラムシ）	発生量：やや少	フタスジヒメハムシ	発生量：平年並
	ウコンノメイガ	発生量：平年並	マメシンクイガ	発生量：少
	吸実性カメムシ類	発生量：やや多	－	－

発生予察第7号（令和6年8月5日）：宮城県病害虫防除所

◎ 紫斑病

降雨が多く収穫時期の気温が高いと発生が多くなります。特にタンレイで多発しやすいので**タンレイ**は**開花期後20～40日に2回防除**しましょう（同一系統の剤の使用は避ける）。

＊県内でアミスター20フロアブル（アゾキシストロビン水和剤、FRACコード11）の感受性低下菌の発生が確認されました。前年に紫斑病の多発が見られ、剤の効力低下が確認された場合は使用を中止し、他系統の薬剤であるプランダム乳剤25（ FRACコード3）、ニマイバー水和剤（FRACコード10、１ ）、トライフロアブル （FRACコードU16）などに切り替えてください。

◎　子実害虫（マメシンクイガ、フタスジヒメハムシ、ダイズサヤムシガ、カメムシ等）

☆マメシンクイガ

連作ほ場で多発します。８月末～９月はじめに1回目の防除、その7～10日後に2回目の防除を行いましょう。

☆フタスジヒメハムシ

生育初期の葉の食害に加え、若莢の表面を食害し、そこから雑菌が侵入して汚粒の原因となります。第2世代成虫の発生盛期（８月下旬～９月上旬）に防除を行いましょう。

☆ダイズサヤムシガ

若齢幼虫が大豆の生長点付近の新葉をつづり合わせて食害しているとき(右写真)に防除しましょう。

◎　食葉性害虫（チョウ目幼虫 ： ツメクサガ、ウコンノメイガ、オオタバコガ、コガネムシ類）

開花期後（特に莢伸長期～子実肥大期）に食害を受けると減収することがあるので、食害葉面積率20%（右下写真）を目安に防除しましょう。

食害葉面積率
20%

◎　アブラムシ類

モザイク病や萎縮病といったウイルス病を媒介し、多発すると早期落葉して収量・品質が低下します。

発生のピークは、８月下旬から9月上旬ですが、葉の黄化・褐変症状が見られたら（写真右）葉の裏を確認し、発生が多いときには薬剤が葉の裏までかかるよう、丁寧に防除を行いましょう。

また、モザイク・萎縮の見られる株は抜き取ります。

※主な病害虫防除薬剤は、「麦・大豆栽培技術マニュアル」（令和6年3月、編集・発行：いしのまき農業協同組合、監修：宮城県石巻農業改良普及センター）」の73ページを参照してください。

◆湿害対策

◎大雨のあとや降雨が続く際は、ほ場を見回り、排水状況を確認しましょう。

◆乾燥対策

◎　大豆は開花期以降、多量の水を必要とし、不足すると落花・落きょうにより減収するので、晴天が7日以上続き、土壌が白く乾燥し、日中の葉の半分以上が反転している場合には、暗きょを閉じて水分保持（地下かんがい）するなどの対策が有効です。

畝間かん水の注意点
①必ず夕方～朝方にする
（日中は絶対にダメ！）
②過湿にならないようにする

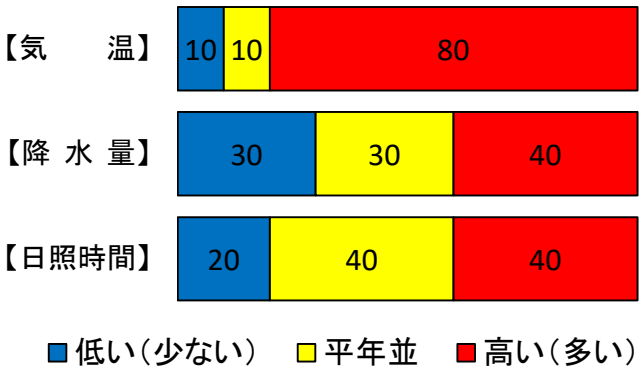
◎　ほ場の排水機能が高く、畝間かん水が可能な場合は実施しましょう。

1か月予報　（8/10～9/9）

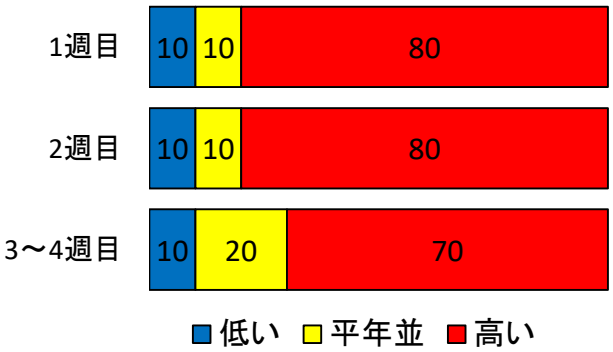
仙台管区気象台　8月8日発表

向こう1か月程度は気温の高い状態が続き、期間の前半は気温がかなり高くなる見込み

○1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）



○週別気温経過の各階級の確率（%）



＜予報の対象期間＞
1か月　　:8月10日（土）～　9月　9日（月）
1週目　　:8月10日（土）～　8月16日（金）
2週目　　:8月17日（土）～　8月23日（金）
3～4週目:8月24日（土）～　9月　6日（金）